



3ヶ月のご無沙汰です。厳しかった夏の暑さを乗り切り、秋の匂い木犀の季も過ぎ、秋の虫達の綺麗なコーラスも今は聞こえなくなり冬支度が始まりましました。12月3日からアドベントに入ります。お元気でクリスマス、新年をお迎え下さい。来年も紙面でお会いしましょう。

編集員一同

# 『主に在りて』

告別式の

神奈川在住の頃、お世話になった友人のご主人が天に召された。亡くなられる前日に「少し病状が回復してきた」と友人から連絡があったので、安心していた矢先のことだった。ご主人の言葉・・・「許

朝、近江八幡駅に着くと米原行きは人身事故のため、一時間遅れが発生しており、目的の南林間に到着したのは、式の五分前だった。ご主人は、笑顔の優しい控えめな方だった。我が家の娘達もよく可愛がっていた。おじちゃん、おじちゃん」と慕っていた。亡くなられたとの連絡が入ったのち、その頃の日記を読み返していたら、ご主人との会話が書き留められていた。十五年も会っていないに次々と名

今は使い捨ての時代。百円ショップが繁盛している。衣服も新しいものが安く買えるデイスカウトのお店がはやってる。子供服のチェーン店のN屋などはビックリするほど安い。子供はどんどん成長していく。その年齢に合わせてサイズもデザインも豊富に揃えてある。半世紀以上前、私が子供の頃は兄のお下がりや母が古着を作り直して子供服にしたものなどを着ることが多かった。破

れたら、母が継ぎを当てて直してくれた。たまに新しい服を買ってくれたときは、かなり大きめで、手も足も折り返して着なければならぬほどだった。それが高度成長期と共に物があふれ出した。と、同時に物の寿命も短くなった。汚れたり、破れたり、故障した

## 何が残るか

紀南教会牧師 上山耕司

りしたら、直すのではなく、新しい物に買い換えるようになった。丁度、30〜40年ぐらい前からでしょうか、紙おむつや紙コップ、はたまた衣類、電化製品などなど、使い捨て時代到来です。果ては人間も役にたたなくなると使

発行元 紀南キリスト教会  
和歌山県田辺市 下屋敷町80  
TEL/FAX0739-25-1191  
E-Mail:kinan-ch@beach.ocn.ne.jp  
H・P: http://www.kinan-ch.org/



## 主に 讚美せよ

主を賛美します。『心をつくして主に信頼せよ。自分の知恵にたよってはならない。民であると感じても嬉しかった。天国で再会する時というのは、ひよとしてこんな感じなのかもしれない。』と祈りつつ帰路についていた。ブッシュ・ウーマン

しかし、継ぎ当て世代は物も情も捨てられない。もつたない。だから物はたまに一方。狭い家が物であふれてくる。太つてウエストが合わないズボンでも、いつか痩せたら・・・。子ども達からはそんなもの残されても処分に困るから、と言われている。子供には出来るだけお金も物も残さないのが一番だ。財産があれば当てるし、争いの元になる。本当に大切にしなければ

長い間教会を離れていた時期もありました。一生懸命働いていたら収入もあり、生活こそはできて思いうるうになりませんでした。離婚もし、子育てを一人で行って来ました。自分の知恵、知識に頼ってしまいがちでした。行き詰まり上手くいかず、する事・する事が裏目になる・・・、自分の無力さを知らされ、神様の前に戻らずにはいられなくなり、教会に行くようになりました。『全ての道で主を認めよ』

たかも赤く燃えている火の中に冷たい鉄を入れると、暫くすると鉄が火のように真っ赤になると同じように。寒さが増している時だ。この愛の傍らで暖まろう。キリストは今もすべての人を招いておられる。



『すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安の義の実を結ばせるようになる。』それだから、あなたがたのなえた手と、弱くなっているひざを、まっすぐにしなさい。また、足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐに道をつくりなさい。』ヘブル人への手紙12章11〜13節

は言われました。寄り道をしたり、道を間違えたりしたかも知れませんが、心に平安と喜びがあるなら、今はこの道で感謝です。主はいつも共にいて下さり、貴方を捨てて孤児にはしないと云われました、有り難い事です。私はまだまだ神様を喜ぶような事が出来てないが、一人でも多くの方に神様の愛を伝えたいです。

ひとりカラオケで好きなように歌うのと違い、合唱は音取りなどの骨の折れる面倒な準備が必要で、演奏においても常に他のパートを聞きながらハーモニーを作り上げなければなりません。実にやっかいなものです。それだけに楽しいのですが。4声部でのハーモニーを楽しんでお聞きいただけるよう準備を進めてまいります。

『暁子』 後年教会とつながる一因となりました。そして、年月を経て長男、長女二人の子ども達と一緒にハーモニーを奏でることになるとは、合唱を通しての神様の計らいを思わずにいられません。多分、クリスチャンでなければ長男はこのような合唱という形で歌うことはなかったでしょうから。

あとがき 毎年、瓦版11月号発行の時期には教会ではクリスマス諸行事の準備が進められています。今年の12月24日のキャンドルサーブスでは長男を加えたファミリー4名で讚美をさせていただきます。

